救急科（12 週（麻酔科 4 週含む））
特徴
　山口労災病院救急科は宇部・山陽小野田医療圏を中心に救急受け入れを行っており、消防法に基づく救急指定病院として二次救急を担う。救急車受け入れ台数は平均約 1600-1700 件/年、walk-in 対応約 1600 人/年となっている。内因・外因を問わず広く救急患者を受け入れており、平日日中は救急科専任医師（日本救急医学会救急科指導医・専門医、臨床研修指導医）が中心となり初期診療および専門医療への振り分けを行っている。夜間は各科当直医師が救急患者対応を行っている。

研修目標
医師として基本的な救急初期対応ができるために必要な知識や考え方、技術を習得する。
　◎救急患者の初期診療を適切に行うことができる
　　・病歴や主訴から適切な診察を行い、情報を得ることができる。
　　・診察所見などの臨床情報から必要な検査を考え診断に結び付けることができる。
　　・病態に応じて必要な処置、対処を選択、実行できる。
　　・緊急度、重症度の評価・把握とそれに応じた対処が行える
　　・他科へのコンサルテーションを行える
　　・患者、家族が理解、納得するような病状説明ができる
　　・病歴、病態が整頓されたカルテ記載ができる
　　・複数対応時のマネジメント（優先順位づけ等）が行える。
　　・他の医療スタッフと協調して仕事を進めることができる。
　◎救急対応に必要なスキルを身につける
　　・採血（動脈・静脈）、輸液ルート組み立ておよび静脈路確保
　　・救急超音波検査（心エコー、FAST など）
　　・救急蘇生手技（胸骨圧迫、BVM 換気、電気的除細動など）
　　・簡単な縫合処置
　　・その他必要な手技

指導・教育体制
　日中の救急対応については救急科専任医師がマンツーマンで診療指導を行う。始業前のブリーフィング、救急受け入れ前のブリーフィング、救急患者対応、対応後のデブリーフィング、終業時のデブリーフィングのサイクルを回していくことで研修目標を達成できるようフォローする。当直時は各科当直医指導のもと診療を行い、研修医が当直した日については翌朝に救急科専任医師とともに振り返りカンファを行いフォローする。8 週間の研修期間に医師臨床研修指導ガイドラインの定める経験すべき症候、疾病、病態の約 7-8 割を網羅する 100-120 例程度の初期対応を経験できる見込みである。